



2020年7月30日

# 2020年度(2021年3月期) 第1四半期決算説明資料

 株式会社 日立物流

HITACHI  
Inspire the Next

## I.2020年度第1四半期決算概要

全体概要、グループ別、新型コロナウイルス影響、  
売上収益・営業利益増減内訳、海外地域別、  
受注・立上状況、協創、業態別

## II.2020年度計画

全体概要、計画(グループ別)、売上収益・営業利益増減内訳、  
トピックス〔 戦略投資、ECPF、省人化テクノロジー、  
ESGに関する取り組み 他 〕



# I .2020年度第1四半期 決算概要

( 単位 : 億円、端数四捨五入、< >内は利益率(%))

	2019年度		2020年度		
	第1四半期		第1四半期		
	実績	実績	前年同期比		
比率			増減		
売上収益	1,697	<b>1,473</b>	87%	-224	
営業利益	<4.7> 79.4	<4.7> <b>69.8</b>	88%	-9.6	
EBIT (受取利息及び支払利息 調整後税引前四半期利益)	<5.6> 95.0	<7.3> <b>107.1</b>	113%	12.2	
親会社株主に帰属する 四半期利益	<2.8> 47.7	<4.3> <b>63.3</b>	133%	15.6	

※本資料中の営業利益は、「調整後営業利益」を記載

( 単位：億円、端数四捨五入、< >内は構成比(% )、( )内は増減差 )

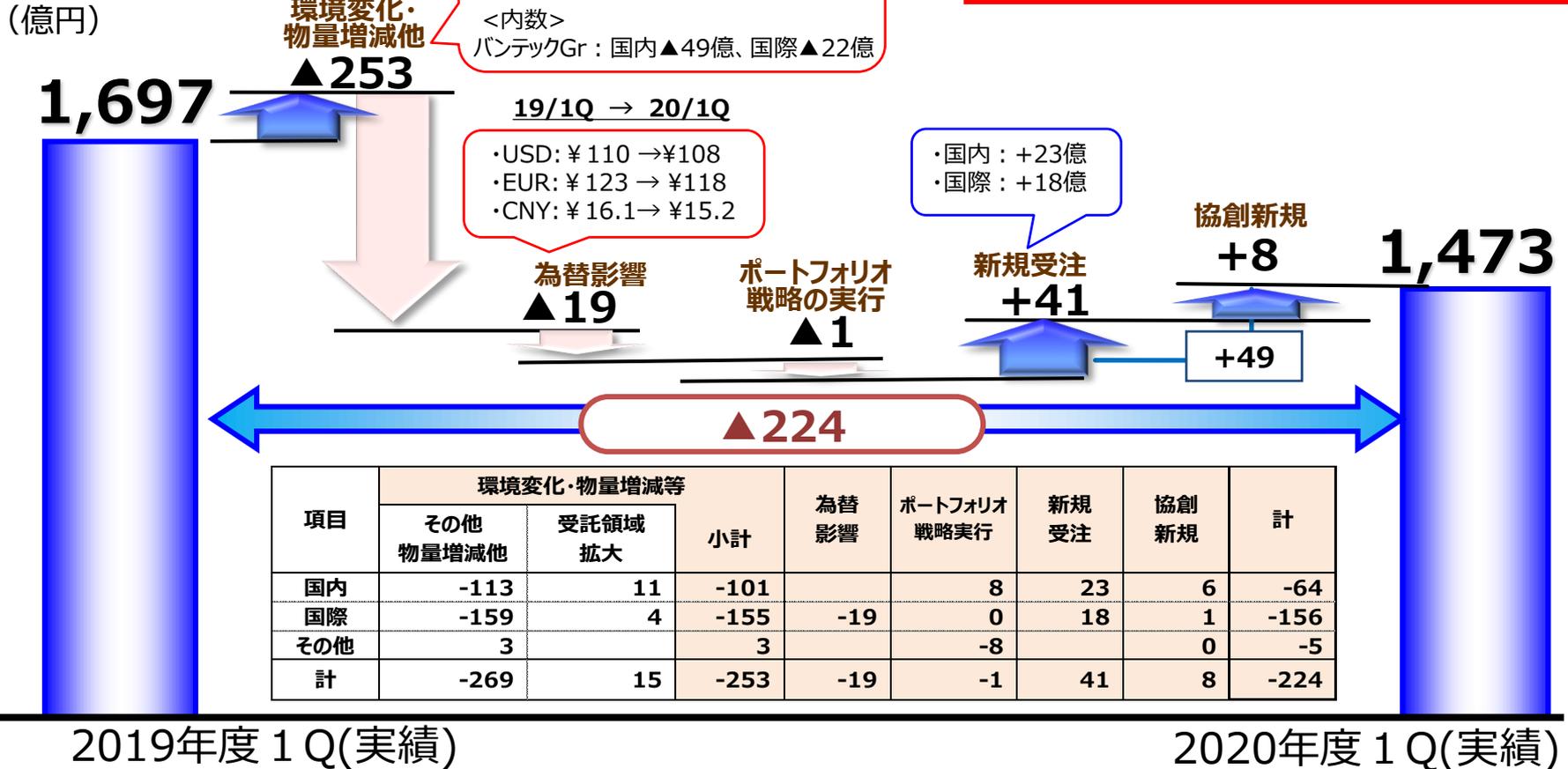
		売上収益			営業利益		
		第1四半期	前年同期比	第1四半期	前年同期比		
オーガニック	国内物流	<68>	902	98%	62.9	116%	
	国際物流	海外	<24>	321	74%	12.2	73%
		国内会社計上分(フォワーディング他)	<5>	66	79%	-1.2	(-1.6)
	計	<29>	387	75%	11.1	65%	
	その他(物流周辺事業等)	<3>	39	89%	1.7	40%	
	計	<100>	1,327	90%	75.6	100%	
バンテックグループ	国内物流	<68>	112	69%	-3.5	(-8.5)	
	国際物流(海外)	<32>	53	64%	-0.6	(-2.2)	
	計	<100>	166	68%	-4.1	(-10.7)	
連結消去・バンテック顧客関連資産償却等		-	-20	(+5)	-1.7	(+1.0)	
合計	国内物流	<68>	1,009	94%	57.5	101%	
	国際物流	海外	<25>	368	72%	11.8	67%
		国内会社計上分(フォワーディング他)	<4>	60	79%	-1.2	(-1.6)
	計	<29>	428	73%	10.6	59%	
	その他(物流周辺事業等)	<2>	36	88%	1.7	40%	
	計	<100>	1,473	87%	69.8	88%	

(単位：億円)

区分		影響額		内容	
		売上収益	営業利益		
オーガニック	国内	▲ 32	▲ 6.8	・顧客店舗休業、インバウンド減少に伴う物量減 ・生活・メディカル・EC等、生活関連顧客の物量増等	
	国際	北米	▲ 33	▲ 3.5	[北米・欧州・アジア] ・顧客工場操業低下による物量減
		欧州	▲ 25	▲ 6.3	・輸送規制による物量減
		アジア	▲ 6	▲ 1.5	・輸出入貨物の取扱い減少等
		中国	3	1.4	[中国] ・国内生産・消費の回復
		海外計	▲ 61	▲ 9.9	・輸出入貨物の取扱い減少等
		VHF※	▲ 9	▲ 2.0	・輸出入貨物の取扱い減少等
	その他	▲ 2	▲ 0.4	・情報システム開発事業における案件期ずれ	
小計	▲ 104	▲ 19			
バンテックグループ	国内	▲ 33	▲ 12.1	・顧客工場の生産停止等による物量減	
	国際	▲ 18	▲ 2.9	・顧客工場操業低下や輸送規制等による物量減 ・輸出入貨物の取扱い減少 (但し、中国は生産・消費が回復)	
	小計	▲ 52	▲ 15		
合計(単純合算値)		▲ 156	▲ 34	・上記数値は事業ベースの概算値(IFRS組替(リース含む)影響及び一部の全社費用配分前) ※(株)日立物流バンテックフォワーディングの略称表記	

連結損益計算書の、「その他の収益」に補助金(主に海外)等を約5億円計上、「その他の費用」に物流センター・車両の非稼働に伴う固定費等を約13億円計上

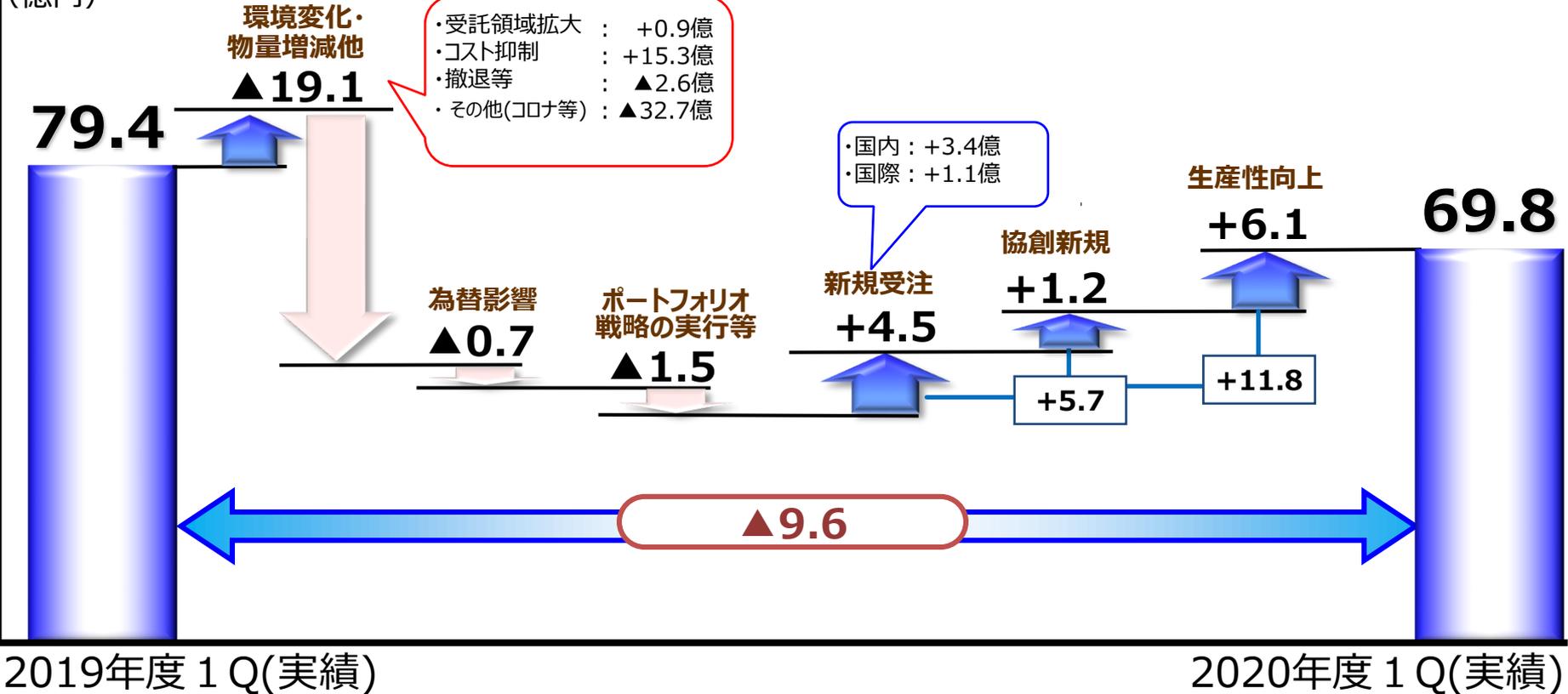
## 売上収益実績



## 営業利益実績

新型コロナウイルス感染症影響「▲34億円」

(億円)



# 2020年度第1四半期決算の概要（海外地域別）

（単位：億円、端数四捨五入、（ ）内は増減差）

項目	売上収益			営業利益		
	2019年度	2020年度		2019年度	2020年度	
	第1四半期	第1四半期	前年同期比	第1四半期	第1四半期	前年同期比
北米	110	<b>67</b>	60%	2.3	<b>-2.9</b>	(-5.2)
欧州 <sup>※1</sup>	167	<b>118</b>	70%	11.3	<b>5.2</b>	46%
アジア(中国除く)	101	<b>78</b>	77%	3.6	<b>2.5</b>	70%
中国	127	<b>98</b>	78%	1.0	<b>5.6</b>	574%
オセアニア他	11	<b>13</b>	118%	0.4	<b>0.9</b>	200%
連結消去等 <sup>※2</sup>	-9	<b>-6</b>	(+3)	-0.8	<b>0.6</b>	(+1.4)
計	507	<b>368</b>	72%	17.7	<b>11.8</b>	67%

※1. トルコは欧州に含む

※2. バンテック顧客関連資産償却や非稼働コスト調整は連結消去等に含む



## 2020年度1Q：受注・立上状況

（単位：件）

		2019年度	2020年度	
		第1四半期	第1四半期	前年同期増減
受注	国内	4	1	-3
	国際	3	2	-1
	計	7	3	-4
立上	国内	5	4	-1
	国際	2	3	1
	計	7	7	0

### （参考1）2020年度1Q主な立上案件

国内：【EC】ECセンター運営

【食品】物流センター運営

【機械】工場構内物流運営

国際：【教育】物流センター運営・輸送業務

### （参考2）国内本部受注件数の推移

＜新旧定義・単発案件(重量機工等)・小規模案件含む＞



## 2020年度 1Q推進状況



※詳細は、18ページをご参照下さい。



### ■ 2020年度1Q 新規寄与分 (単位:億円)

	売上収益	営業利益
国内	6	0.9
国際	1	0.3
その他	0	0.0
<b>協創効果</b>	<b>8</b>	<b>1.2</b>

上記表にはAITとの協創効果を含む



## 参考資料 業態別実績（概算値）

※（ ）内は顧客関連資産償却費を除く

（単位：億円）

	2019年度 第1四半期			2020年度 第1四半期			
	売上収益	営業利益	営業利益率	売上収益	営業利益	営業利益率	
国内	921	53.1	5.8% (5.8%)	906	63.1	7.0%	(7.0%)
海外	200	13.5	6.8% (7.3%)	160	7.8	4.8%	(5.4%)
<b>3PL</b>	<b>1,121</b>	<b>66.7</b>	<b>5.9% (6.1%)</b>	<b>1,066</b>	<b>70.9</b>	<b>6.6%</b>	<b>(6.8%)</b>
国内	76	0.3	0.4% (1.9%)	62	-1.4	-	-
海外	184	1.6	0.9% (1.3%)	139	4.9	3.5%	(4.0%)
<b>フォワーディング</b>	<b>260</b>	<b>1.9</b>	<b>0.7% (1.5%)</b>	<b>201</b>	<b>3.5</b>	<b>1.8%</b>	<b>(2.6%)</b>
国内	154	2.9	1.9% (3.3%)	105	-5.9	-	-
海外	117	2.3	2.0% (2.3%)	65	-0.4	-	-
<b>オート</b>	<b>270</b>	<b>5.3</b>	<b>1.9% (2.9%)</b>	<b>170</b>	<b>-6.4</b>	<b>-</b>	<b>-</b>
<b>その他サービス</b>	<b>46</b>	<b>5.6</b>	<b>12.0% (12.0%)</b>	<b>36</b>	<b>1.8</b>	<b>5.0%</b>	<b>(5.0%)</b>
<b>合計</b>	<b>1,697</b>	<b>79.4</b>	<b>4.7%</b>	<b>1,473</b>	<b>69.8</b>	<b>4.7%</b>	



# Ⅱ.2020年度計画

(単位：億円、端数四捨五入、< >内は利益率(%)、( )内は増減差)

	2019年度		2020年度			
	1 Q	通期	1 Q	前年同期比	通期計画	前年比
売上収益	1,697	6,723	1,473	87%	<b>6,510</b>	97%
営業利益	79.4	<5.0> 334.8	69.8	88%	<4.8> <b>315.0</b>	94%
EBIT (受取利息及び支払利息 調整後税引前当期利益)	95.0	<5.9> 396.1	107.1	113%	<5.9> <b>385.5</b>	97%
親会社株主に 帰属する当期利益	47.7	<3.2> 216.1	63.3	133%	<3.3> <b>215.0</b>	99%
ROE	8.6%	9.5%	10.7%	(+2.1%)	<b>8.8%</b>	(-0.7%)
一株当たり配当	-	43円	-	-	<b>44円</b>	(+1円)

## オーガニック：売上収益 5,831億円 (前年比99%) 営業利益 309億円 (前年比100%)

- ☑ **国内**：生活関連（日用品・メディカル・EC等）は堅調、LCM※・機工案件も回復傾向
- ☑ **北米**：自動車産業は段階的に稼働(再開) ※ライフサイクルマネジメント
- ☑ **欧米**：インターモーダル事業は緩やかに物量が回復
- ☑ **アジア・中国**：輸出入は海外市場の影響を受けるが域内生産・消費は回復
- ☑ **VHF**：物量の一定回復を見込むが構造改革を継続

## バンテック：売上収益 761億円 (前年比80%) 営業利益 15億円 (前年比39%)

- ☑ 収益性は緩やかに回復するが厳しい状況が継続
- ⇒ **3PLを下支えする輸送コアカンパニーへの変革**  
**(事業・地域を超えた人財・車両・施設のシェアリング)**

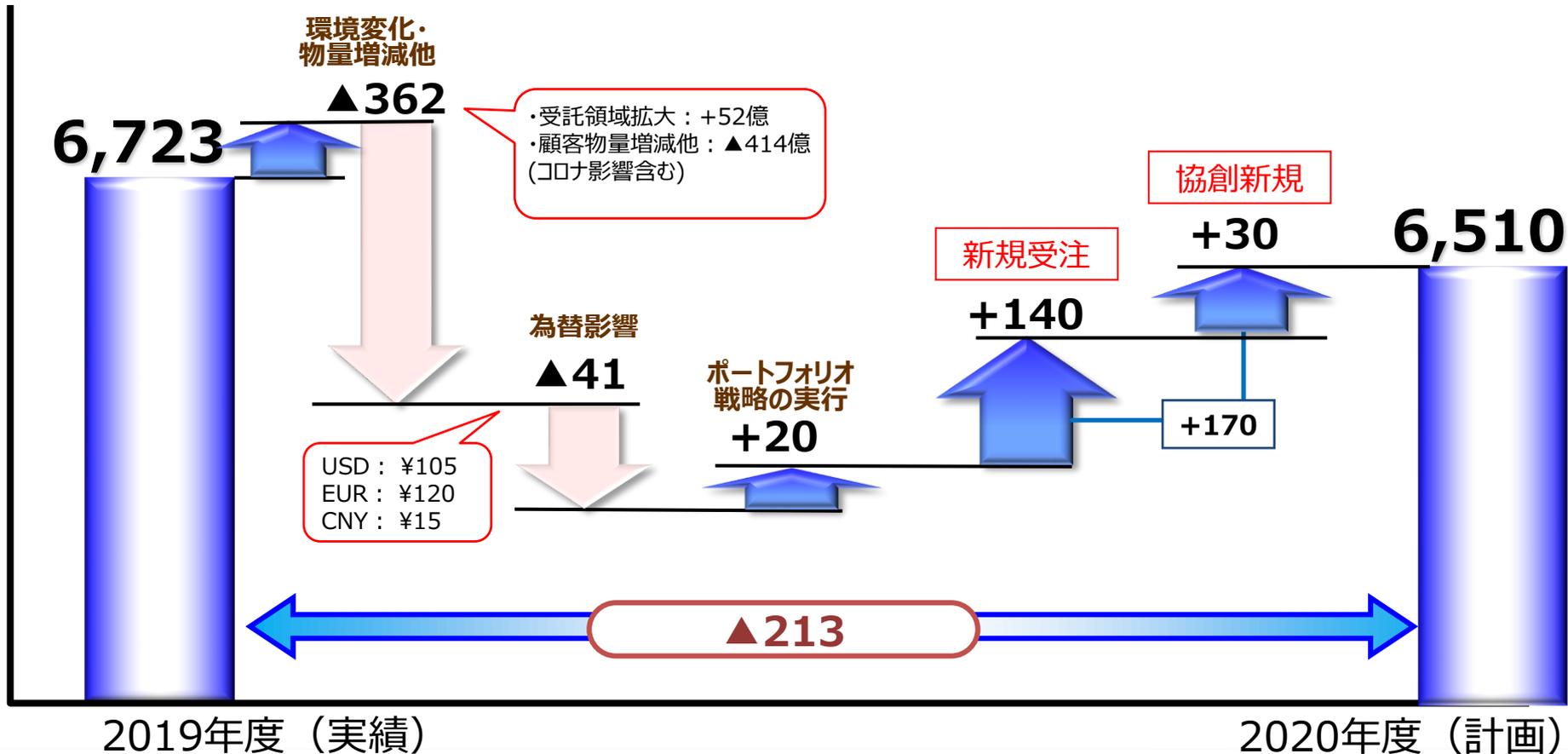


### 【通期計画】

売上収益※：6,510億円 (前年比97%) 営業利益※：315億円 (前年比94%)

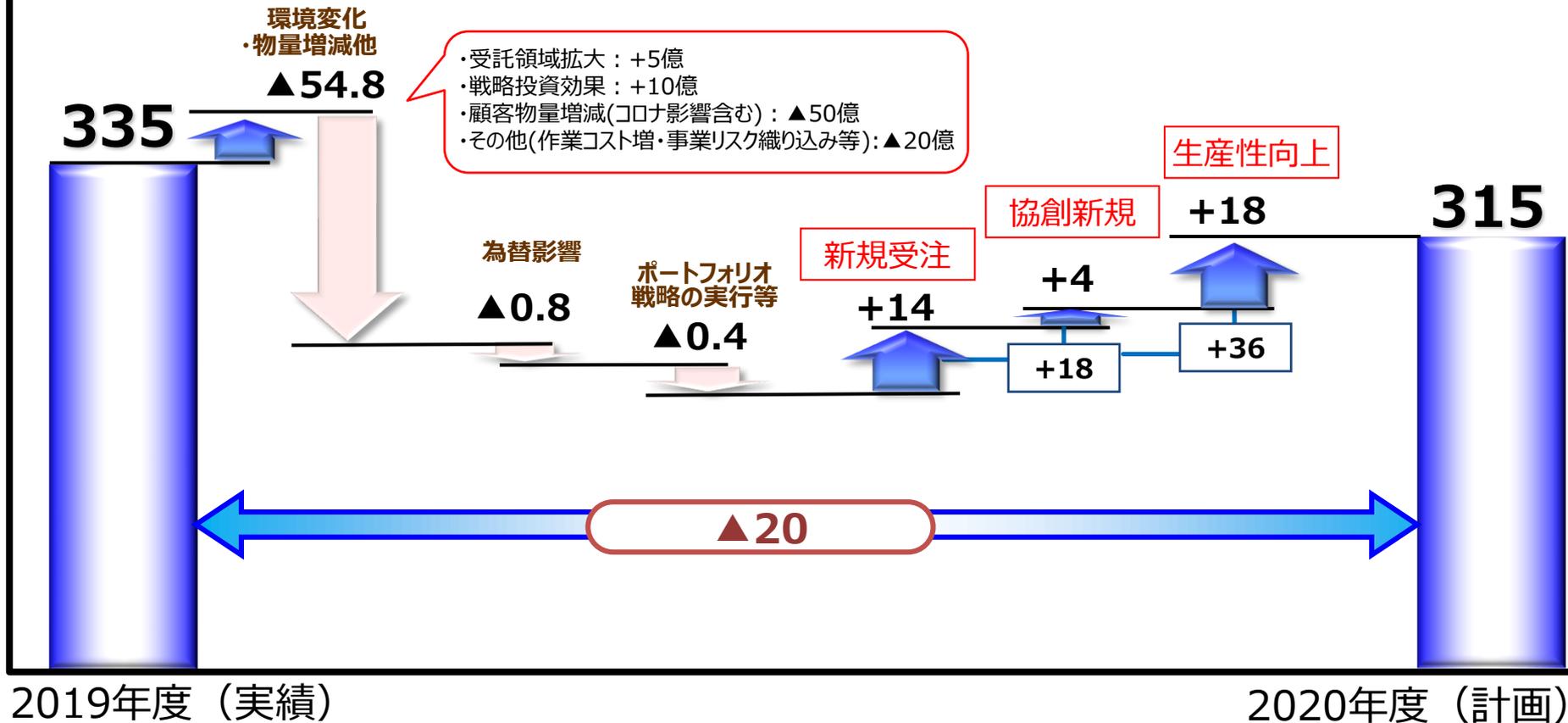
## 売上収益 (計画)

(億円)



## 営業利益 (計画)

(億円)



## 「LOGISTEED」への変化・進化に向けた戦略投資

物流は新領域へ  
**LOGISTEED**

### スマートウェアハウス



**SMART: WAREHOUSE**  
スマートウェアハウス

### 輸送デジタルプラットフォーム



**SSCV** ... Safety }  
Smart } 3つの  
Vehicle } ソリューション

### デジタル事業基盤の構築



**SCDOS**  
サプライチェーン最適化

- ECプラットフォームセンター
- 省人化テクノロジーの実装加速



- 5Gを活用した物流の高度化



### 戦略投資

2020年度  
1Q実績：5.5億円※



2020年度  
見通し  
約25億円※

- DX推進・IT基盤構築 約3割
- 新事業基盤 約3割
- 安全・人財等 約2割
- 新技術開発 約2割

※「経費計上ベース」、  
「2019年度実績:1Q5.5億円・通期25億円」

## 新規ビジネスモデル確立に向けた、EC事業者向け物流シェアリングサービス

### 【ベースカーゴの獲得】

#### 既存顧客誘致を含めたベースカーゴの獲得

- ✓ 既存顧客 1社、新規顧客 1社  
・大手健康食品、加工食品・飲料
- ✓ 既存顧客の誘致拡大  
・アパレル、生活家電サービスパーツ 等

### 【新規受注拡大】

#### 約20社から受託決定(2020年7月時点)

- ✓ 主要顧客  
・化粧品、健康食品、加工食品、日用雑貨 等

売上規模 約10億円/年

### 【さらなる拡販】

#### サービス認知度の向上

#### 新たな営業チャネルの拡大

- ✓ 非対面営業強化 (マーケティングオートメーション運用)
- ✓ Webセミナーの定期開催
- ✓ 協創パートナー連携・クロスセル展開

#### シェアリングによるコスト競争力のある料金提示

固定費不要

従量課金型

・最短1ヵ月以内で稼働が可能

#### パートナー協創によるサービス拡充

- ✓ 物流コアサービス提供から、周辺サービスへ拡大  
・システム連携先拡大 (3社から5社へ)



2020年度下期収益化予定

無料Webセミナー定期開催中

日立物流スマートウェアハウス  
特設サイト、セミナー案内





## 既存物流センターへの導入

### 【パレタイザーの導入】

#### ＜神奈川県＞

- ✓2021年3月稼働
- ✓飲料顧客
- ✓飲料ケースの積み替え  
(パレット→カゴ車)



### 【デパレタイザーの導入】

#### ＜京都府＞

- ✓2021年3月稼働
- ✓流通系顧客
- ✓既存の出荷コンベア  
との組み合わせ



### 【ピースピッキングロボットの導入】

#### ＜千葉県＞

- ✓2021年3月稼働
- ✓スポーツ関連顧客
- ✓既存のピース順立機  
との組み合わせ



#### ＜静岡県＞

- ✓2021年6月稼働
- ✓日雑・食品・飲料顧客
- ✓既存の出荷コンベア、  
自動倉庫との組み合わせ





## 東日本第二メディカル物流センターの稼働



場所：埼玉県

時期：2021年2月稼働予定

(新技術のフル稼働は2021年9月)

**✓ GDP※に準拠し、且つ当社の運営ノウハウを活かした物流センター**

※Good Distribution Practiceの略称

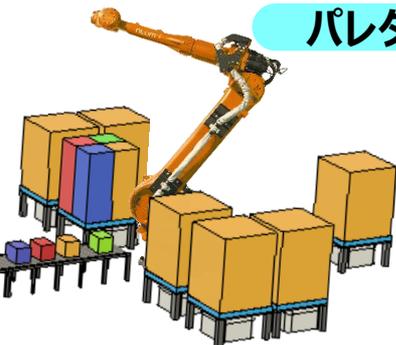
**✓さまざまな新技術を最適に組み合わせ  
物流センター全体の高效率運営を実現**

### 【導入検討中の新技術等】

デパレタイザー

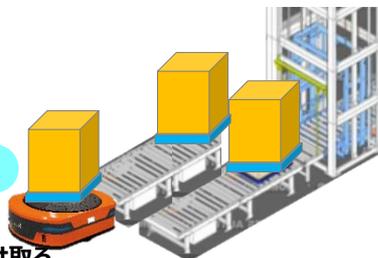


パレタイザー



AGV

垂直搬送機から  
パレットを直接受け取る



無人フォーク



## 国連グローバル・コンパクトに参加

「国連グローバル・コンパクト」に署名し、  
「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」  
に加入(2020年5月)

### 【国連グローバル・コンパクトの10原則】

人権 	原則 1	人権擁護の支持と尊重
	原則 2	人権侵害への非加担
労働 	原則 3	結社の自由と団体交渉権の承認
	原則 4	強制労働の排除
	原則 5	児童労働の実効的な廃止
	原則 6	雇用と職業の差別撤廃
環境 	原則 7	環境問題の予防的アプローチ
	原則 8	環境に対する責任のイニシアティブ
	原則 9	環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止 	原則 10	強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取り組み

## 環境中長期目標の策定

### ■ 2030年度目標

CO<sub>2</sub>  
総排出量

基準年度比※1  
**30%削減**

### ■ 2050年度努力目標

基準年度比※1  
**80%削減**

※1.基準年度：2013年度

排出範囲：事業の運営により自家で消費したエネルギー起源のCO<sub>2</sub>  
エネルギーの種類：電気・車両用燃料等

### 日立物流グループCO<sub>2</sub>排出量の推移 (国内)



2020年9月  
統合報告書発行

従来のアニュアルレポートに代わり、統合報告書を新たに発行。

\* 当社グループの価値創造プロセス、ビジネスモデルを説明し、持続的な企業価値向上に向けた取り組みを紹介  
(国際統合報告評議会(IIRC)の「国際統合報告フレームワーク」や経済産業省の「価値協創ガイダンス」を参考に編集)

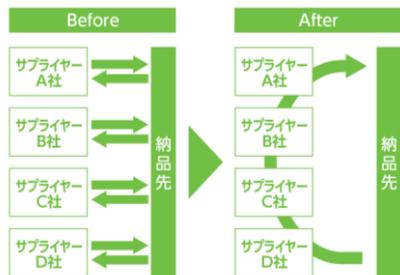
## 北米でのシェアードミルクラン※1

拠点(クロスドック)と集荷ルートでのシェアリングで  
輸送効率の向上、CO<sub>2</sub>や大気汚染物質の排出減  
を実現

想定  
効果

CO<sub>2</sub>・NO<sub>x</sub>排出量  
22%削減

ミルクラン



※1.シェアードミルクラン：

1台のトラックで複数サプライヤーの拠点を巡回して、生産部品  
などの集荷を行い、生産工場に一括納品する輸送方式。

## 第21回物流環境大賞 「物流環境特別賞」※2を受賞

新型専用輸送コンテナ開発による輸送効率向上  
(シュレッダーダスト※3のコンテナ輸送への導入)

想定  
効果

CO<sub>2</sub>削減  
31.9トン削減/月



新型専用コンテナ(外観)



表彰状

※2.一般社団法人 日本物流団体連合会 主催

※3.産業廃棄物を粉碎処理後に鉄など有用物を回収した残り

## LOGISTEEDの取り組み・アクティビティを発信する場を京橋本社内に開設

### <目的>

「パートナーとの知の共有、探索」・「パートナーとのコラボレーションによるプロジェクトの加速」

パートナーによるセミナー  
(対話型ビジネスキャンパス等)



物流センターの様子  
好事例などを放映

2020年12月  
開設予定

IR-DAY・メディア懇談会等



パートナーとの  
ワークスペース



2020年7月30日

# 2020年度(2021年3月期) 第1四半期決算説明資料

 株式会社 日立物流

HITACHI  
Inspire the Next



物流は新領域へ  
**LOGISTEED**